

シエラレオネにおける人々とチンパンジーのかかわりとその保全

——サンクチュアリ活動と生息地でのチンパンジー観——

平成18年編入

派遣先国：シエラレオネ

権沢 麻美

キーワード：チンパンジー，サンクチュアリ，保全，シエラレオネ，野生動物観

対象とする問題の概要

絶滅危惧種であるチンパンジーの生息地アフリカにおける保全活動は、主に先進国の援助と技術協力の下にすすめられているが、その活動を維持していくために、現地の人々の理解と参加、そして主体性が望まれている。チンパンジーの生息地であるアフリカで、その文化や伝統、また人々の野生動物観にチンパンジーは深くかかわってきているという報告や文献はあるが、過去30年に急増し、さまざまな方法で進められているチンパンジー保全活動が現地の人々にどのように受け止められているか、あるいは人々のチンパンジー観とその「保全」がどのような関係にあるかは研究されていない。「保全」という国際協力の場において援助する側の理念と、援助される側の文化や社会的背景の間にあるギャップを埋めるために、本研究のような実践的な人文学・社会学調査研究が必要である。



タクガマ・チンパンジー・サンクチュアリの放飼場

研究目的

チンパンジー生息地の人々にとって「チンパンジー」がどのような存在であるかを、文化的および社会的見地と、近年先進国によって導入された「保護されるべき対象」といった観点から調査する。調査地のシエラレオネは70年代まで先進国における医療研究や娯楽・ペット市場への生きたチンパンジーの主たる供給国であった。同国内では違法チンパンジーペット取引が問題となっており、それに対処するため、没収されたチンパンジーを収容・飼育する「サンクチュアリ」という施設が中心にチンパンジー保

全活動を行っている。しかし、チンパンジー生息地の一地域ではチンパンジーは呪術的な意味から恐れられているという報告もあり、野生チンパンジー保全活動の方法に疑問を持つ声もある。本研究はサンクチュアリの運営や活動をとおしてみられた、生息地の人々のチンパンジーとの関わりを考察することを目的とする。

フィールドワークから得られた知見について

80年代からアフリカで、違法ペット取引取締りで没収されたチンパンジーを引き取り、飼育するサンクチュアリの施設数とその飼育下にある個体数が増加している。サンクチュアリは「動物の福祉」という思想のもとに始められたが、チンパンジーが絶滅危惧種となった近年では、その活動を野生個体の「保全」にも拡大してきている。現在シエラレオネでは、サンクチュアリが唯一チンパンジー保全活動を長期的に行っている機関であり、その機能は保全の実践において重要である。今回の調査で、シエラレオネにおけるペット問題は、一般的に考えられているような食用のための乱獲による副産物ではなく、その要因が同国の持つ、先進国の需要によって生じた、チンパンジーの多量の捕獲・輸出の過去の経験にあることが示唆された。2006年に現地住民の被害者2人をだした、サンクチュアリから脱走したチンパンジーによる殺傷事件に関する調査の結果、長期間人に飼育されてきたチンパンジーでも、サンクチュアリのような自然に近い環境での飼育により、野生に近い行動が取り戻せることがわかった。また、事件後はサンクチュアリや、チンパンジーに対する現地住民からの批判的な態度や行動が懸念されたが、実際には現地政府機関、住民から理解と協力が見られた。サンクチュアリとその飼育下にあるチンパンジー個体数の増加を考えると、ペット問題やサンクチュアリを保全と切り離すことは、絶滅危惧の一要因を無視し、起きてしまった問題に対する対応や責任を回避していることになる。サンクチュアリを保全の枠の外に置くよりも、その施設と飼育下にあるチンパンジーを現地での保全の拠点とし、保全関係者との協力のもと、サンクチュアリの飼育下にある個体の野生帰還の方法の確立、サンクチュアリ施設を利用した調査研究、環境保全教育活動に有効活用するといった新しい対策を見つけ出すべきである。



売られていた幼少のチンパンジー



サンクチュアリが中心となった教育活動の一環として、チンパンジーの狩猟と捕獲の違法性であることを知らせるサインボード

今後の展開・反省点

今回の調査では、シエラレオネ国内のチンパンジー生息分布に関する詳しい情報が無かったために聞き取り調査を行った地域が限られた。2009年からチンパンジーの生息分布調査が行われる予定であるた

め、その結果をもとに、広い範囲での聞き取り調査を行うことが、今後チンパンジー生息地に住む人々に関する理解を深めるために重要である。今回行ったサンクチュアリに引き取られるチンパンジー個体に関する調査を続け、ペット取引の長期にわたる変動を分析していきたい。また、同様の調査を他国で行い比較することもチンパンジー保全問題の地域性を知る上で必要であると考えている。